

Title	環境思想の継承におけるオクタヴィア・ヒル：英国ナショナル・トラストとの関係をめぐって
Author(s)	木村，美里
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.2, 2013.1：6-8
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4347
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

環境思想の継承におけるオクタヴィア・ヒル —英国ナショナル・トラストとの関係をめぐって—

木村 美里

はじめに

英国の女性社会改良家オクタヴィア・ヒル（Octavia Hill, 1838–1912：以下、ヒルとする。）は、英国ナショナル・トラスト（The National Trust for Places of Historic Interest and Natural Beauty：以下、トラストとする。）の創設者の1人として知られている。これまでのヒルの研究では彼女の生涯を通じてヒルとトラストの関係が取り上げられることはあっても、その関係を中心とした研究が多いとはいえない。それゆえに本稿ではこの「ヒルとトラストの関係」をテーマとして研究に取り組むにあたり、その概要を報告したい。

なおこの研究は日本学術振興会科学研究費補助金の若手研究（B）「環境思想の継承—オクタヴィア・ヒルとナショナル・トラストの関係についての一考察」（研究課題番号：24720040）の助成を受けている。

1. 研究概要

この研究の目的は、「いかにして環境思想の継承を行うか」という問いの答えを模索し、人々への指針・啓発とすることにある。具体的にはヒルとトラストの関係に限定して先行研究や資料の収集・整理を行なう。さらにトラストにおけるヒルの思想と実践について、その現代的意義の解明を試みる。

またこの研究は3年計画であり、初年度は主に①研究対象となる範囲の設定、②一次資料・先行研究の整理および分析、③新たな事実などの情報・資料収集に分類される。①の研究範囲は、同じくトラスト創設者の1人であるロバート・ハンター（Sir Robert Hunter, 1844–1913）がバーミンガムでトラストの構想となる団体創設案の論文を発表した1884年に始まり、ヒルの亡くなる1912年までの28年間に限定する¹。この期間の中でトラストは1895年の創設から1912年までの活動が対象と

なる。②の先行研究の整理および分析においては、「ヒルとトラストの関係」に焦点をあてて論じる。この考察については後述する。③については他の機会に譲り、本稿では扱わない。

2. 現在の研究状況

前項で述べた研究範囲に基づいて、現在一次資料と先行研究の整理および分析を継続している。一次資料の扱いとしてはヒルの書簡、新聞への投稿文書、トラストに関する論文などが対象となり、彼女のトラストに対する考えと活動を考察する。先行研究の整理ではトラスト創設の経緯におけるヒルの係わりが概観できるとともに、ヒルがトラストにおいてアピールを担当していたこと、トラストが取得した建物の修復にあたり、古建築物保護協会と協力し、建築家の選定に際して助言していたことなどがわかる。この建物修復に関してヒルは修復に相応しい建築家の人物像を述べており、また、実際に古建築物保護協会から紹介された建築家についてもトラストの取得財産に関する資料の中で明らかとなっている²。

アピールに関しては、ヒルが The Times 紙への読者の投稿欄に手紙を投稿していることが挙げられる。この投稿の一つにヒルは公園や庭を持たない人々のためにオープン・スペースの保護が必要不可欠であり、そのための寄付が必要であることを訴えている³。

3. 今後の研究における方向性

以上のことから今後の研究の課題は、現在行なっている資料整理の結果をより具体的に探究することである。ハンターのバーミンガムでの論文発表からトラスト創設までには11年もの歳月を要した。創設に長い時間を要した理由はいくつか挙げられる。例えば共有地保存協会（The Commons Preservation Society：CPS）のメンバーに反対者がいたこともその一つといえる⁴。またヒルやハンタ

ーが既存の活動に専念しなければならず、トラスト創設の実現が困難になっていたことも挙げられる⁵。このため空白部分の期間におけるトラスト創設反対に関する詳細、ならびに具体的にヒルのどの活動がトラスト創設実現を困難にしたのかを明確にしたい。さらにヒルはアメリカの環境保護団体の資料を取り寄せるなどのトラスト創設に係る準備を行なった⁶。したがって創設までの活動として他にどのような準備が展開されたか、その準備に使用した書類・資料などが存在するかどうかについても明らかにしてゆく必要がある。ヒルが担当していたアピールについては、彼女の生涯に行なわれたナショナル・トラストのアピールは一度も失敗しなかったとの記述がみられる⁷。このことからヒルによる人びとへの啓発活動の詳細が環境思想の継承および永続性において重要になると推察され、それゆえに彼女のアピールの手法を読み解くべきであると考ええる。

おわりに

ヒルとトラストの関係については、彼女が行った数多くの活動の中のひとつであったこと、晩年の活動であったことから、住宅改良運動またはオープン・スペース運動などの主たる活動と異なり、重要視しない意見もみられる。しかしながら今日の環境保護の重要性を考えるにあたり、ヒルの思想とトラストとの関係から環境思想の継承を探究することは必要であると考ええる。また綿密にヒルの思想や活動が考察された先行研究から「ヒルとトラストの関係」を抽出し、まとめることは有意義であるとともに、トラストにおけるヒルの活動を具体化できる点で重要であるといえよう。この研究は先述の通り3年計画のため、今後も研究の進捗状況や成果を公開する予定である。

- 1 　ただしヒルを含む三名の創設者の出会いはトラスト創設に係る出来事のため、例外として年表の範囲の中に組み込む。
- 2 　The National Trust. Alfriston Clergy House. (Swindon, 1995), p. 13.
- 3 　Octavia Hill “Derwentwater”, The Times, Monday, Jun 10, 1901, p. 7.
- 4 　その中にはショールフェーブル議員の名前を挙げることができる。彼はトラスト創設により、CPSの支持者が奪われ、衰退することを懸念した。しかし、トラストのような団体の創設が急務であると認識後、反対を取り下げた。井上洋子「オクタヴィア・ヒルの生涯（4）ーオープン・スペース運動からナショナル・トラストまでー」『精華女子短期大学紀要』（1995年）、72頁。グレアム・マーフィ『ナショナル・トラストの誕生』四元忠博 訳、（緑風出版、1992年）、159頁、161頁。
- 5 　ロビン・フェデン『ナショナル・トラスト：その歴史と現状』四元忠博 訳、（時潮社、1984年）、10頁。またその結果、ハードウィック・ローンズリィ（Hardwicke Drummond Rawnsley, 1851-1920）が協力を申し出て、ヒルやハンターとともにトラスト創設に向けての原動力になった。
- 6 　Letter to Ellen Chase, 25th October 1893, in . Maurice, Edmund, C., ed. Life of Octavia Hill as told in her letters (London, 1913), p. 527. Gillian, Darley, Octavia Hill (London, 1990), p. 299. トラスト創設後もアメリカの環境保護団体の最新情報に関する報告書の送付を依頼している。Letter to Ellen Chase, 28th November 1897, Maurice, ibid, p. 540.
- 7 　Darley (1990), op. cit., p. 310.

参考文献

- Darley, Gillian (1990) Octavia Hill' London: Constable
Maurice, Edmund, C., ed. (1913) Life of Octavia Hill as told in her letters London: Macmillan and Co.
Murphy, Graham. Founders of The National Trust. New ed., (London, The National Trust, 2002). 『ナショナル・トラストの誕生』四元忠博 訳、（緑風出版、1992年）。
The National Trust. Alfriston Clergy House. (Swindon, The National Trust, 1995).
井上洋子「オクタヴィア・ヒルの生涯（4）ーオープン・スペース運動からナショナル・トラストまでー」『精華女子短期大学紀要』（1995年、21）、67-76頁。

中島直子『オクタヴィア・ヒルのオープン・スペース
運動—その思想と活動—』（古今書院、2005年）。
フェデン・ロビン『ナショナル・トラスト：その歴史
と現状』四元忠博 訳、（時潮社、1984年）。

（きむら・みさと 聖学院大学基礎総合教育部特
任助手）

聖学院大学総合研究所主催
シンポジウム・講演会のお知らせ

スピリチュアルケア研究講演会

ホスピスケアの目指すもの
—ケアタウン小平の取り組み—

講 師：山崎 章朗
（ケアタウン小平クリニック院長）
日 時：2013年 1 月24日(木)
14時～16時30分（開場13時30分）
場 所：聖学院大学ヴェリタス館教授会室
参加費：1,000円 定員：100名

臨床死生学研究シンポジウム

ヘンリー・ナウエンに学ぶ
苦しみと希望：祈り、共苦、コミュニティ

講 師：大塚 野百合
（恵泉女学園大学 名誉教授）
パネラー：小渕 春夫
（出版社あめんどう 代表）
平山 正実
（聖学院大学大学院 教授）
日 時：2013年 2 月13日(水)
14時～16時30分（開場13時30分）
場 所：聖学院大学 4 号館 4 階4401大教室
参 加 費：1,000円 定員：150名

聖学院大学への交通

JR 高崎線宮原駅から学生バス10分
徒歩20分
JR 川越線西大宮駅から学生バス15分
JR 川越線日進駅から徒歩20分

お申し込み・お問い合わせ

聖学院大学総合研究所
TEL:048-725-5524 FAX:048-781-0421
research@seigakuin-univ.ac.jp

研究会・講演会・シンポジウム案内ページ
<http://souken.seigakuin-univ.ac.jp/>